

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

産業創造系、機械系、電気系が連携した創造的なものづくり教育により、地域社会のリーダーとなり得る人格を兼ね備えたものづくりのスペシャリストを育成する。 『『地域の宝』となる！』というスローガンを掲げ、「社会人基礎力（前に踏み出す力）（考え抜く力）（チームで働く力）」の育成と、優れた工業技術や創造性を有する人材を育成する。 1 人権尊重の理念を正しく理解し、豊かな人間性と基本的な生活習慣に加え、礼儀や挨拶などの社会性を身に付けた生徒を育成する学校 2 自ら課題を見つけ、他の人々と協働し、課題解決に主体的に取り組むことのできる創造性豊かな製品開発のスペシャリストを育成する学校 3 生徒一人ひとりを大切にした教育を実践し、生徒、保護者が「入学してよかった」「学んでよかった」「卒業してよかった」と実感できる学校 4 地域の「ものづくり」の発信源となり、地域の住民、産業界から「地域の宝」として信頼される学校
--

2 中期的目標

1 社会的自立を見据えた基本的生活習慣と規範意識の醸成による自己実現 （1）キャリア教育の観点から基本的生活習慣、社会性、規範意識をはぐくむことにより自己実現を図る。 ア、学校教育自己診断の「学校生活についての先生の指導は納得できる」を令和8年度には、70%以上とする。 （R3 71.3%、R4 65.6%、R5 71.8%） （2）新たな教育手法（PBL 等）を探究し、スマート専門高校として習得した最先端技術・技能を基礎とした創造力を育成する。 ア、各種コンテスト、大会に積極的に参加し成果を上げる。また、資格取得によりチャレンジ精神と自尊心を育成する （3）正しい勤労観・職業観を育成するために、「キャリア教育」・「職業教育」の充実を図り、社会の変化に主体的に対応できる力を育成する。 ア、応募前職場見学、大学、企業等見学への参加者を延べで 450 名以上とする。また、令和8年度までには 500 名以上とする。 （応募前職場見学、大学、企業等見学参加者延べ：R3 148 名、R4 172 名、R5 150 名） イ、就職一次合格率 85%を維持とする（R3 87.2%、R4 88.7%、R5 91.7%）
2 確かな学力の定着と学びの深化 （1）教員の授業力を向上し、主体的・対話的な深い学びの実現に向けて授業改善を行い、指導と評価の一体化の観点から学習指導の見直しを行う。 ア、年2回の授業公開週間を設定する。授業実践の共有を推奨し、相互に好事例の共有及び改善点の把握に努める。 イ、授業理解度 78%以上を維持する。 （授業理解度：[普通科]・[専門科]R3 84.3%・81.1%、R4 81.6%・82.2%、R5 85.0%・79.8%） ウ、授業アンケート結果による総合（設問1～9）スコアを 3.20 以上を維持する。 （授業アンケートスコア [12 月]：R3 3.21、R4 3.25、R5 3.32） （2）ICT（1 人 1 台端末等）を活用した先進的な授業を実践する。 ア、授業で ICT を活用した実践を行う教員の割合 100%を維持する。 イ、生成 AI や仮想空間、最先端技術を活用した教育実践を行う。
3 生徒一人ひとりを大切にした教育の推進 （1）個々の生徒の状況に応じたきめ細やかな支援と配慮を行い、いじめの防止、対人関係の課題解決を図り、安全で安心できる学びの場を提供する。 ア、退学率を 1.5%未満、入学満足度を 75%以上、登校満足度を 73%以上、令和8年度までには、入学満足度を 77%以上、登校満足度を 75%以上とする。 （退学率：R3 1.1%、R4 2.0%、R5 2.2%）（入学満足度：R3 80.6%、R4 76.5%、R5 78.6%）（登校満足度：R3 79.6%、R4 77.8%、R5 77.6%） イ、支援や配慮を必要とするすべての生徒に「個別的教育支援計画」・「個別の指導計画」を作成し、一人ひとりの個性に応じた支援と適切な評価を行う。 ウ、不登校の未然防止の取組みの推進と不登校経験がある生徒に対して、個々の状況に応じた適切な支援を組織的に行う。 （2）チャレンジ週間の取組みの充実を図り、生徒の挑戦心と自尊感情を育成する。 ア、令和8年度までには、登校満足度 75%以上とする。（登校満足度：R3 79.6%、R4 77.8%、R5 77.6%） （3）ICT 化推進により業務や会議の効率化を行い、生徒とかかわる時間を増やす。
4 地域と連携した開かれた学校づくり （1）学校説明会等の広報活動により、学校の魅力の発信を効果的に実施する。 ア、オープンスクール等を年1回以上開催し、参加者を 200 名以上とする。 （オープンスクール参加者：R3 265 名、R4 357 名、R5 385 名） イ、Web 等の発信を 150 回以上とし、令和8年度には、200 回以上を維持する。 （発信回数：R3 200 回、R4 280 回、R5 300 回） （2）「地域産業連携重点型」工科高校として、地域企業や行政組織等と連携してイベント等に参加し、生徒のものづくり技術やコミュニケーション能力の向上を図る。 ア、新たな企業等連携を 1 社以上 （企業等連携：R3 15 社、R4 24 社、R5 20 社）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和7年1月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【佐野工科満足度について】 ○生徒、保護者評価では、教育活動全般で高い満足度を得ることができている。 教員評価もかなりの上昇がみられ、学校行事にも工夫を凝らしている。 ・《生徒評価》	第1回 令和6年6月27（木）15:30～16:45 ・令和6年度学校経営計画及び学校評価 ・令和6年度 各分掌・系よりの目標設定 ・令和7年度使用教科書選定理由一覧表、令和7年度使用教科書（選定・採択）一

府立佐野工科高等学校

「この学校に入ってよかった」86.2%（R5：76.8% R4：76.5%）	
「学校へ行くのが楽しい」81.1%（R5：77.6% R4：77.8%）	
「文化祭、修学旅行は楽しく行えるよう工夫されている」90.3%	
・《保護者評価》	
「佐野工科に行かせて良かった」96.8%（R5：94.4% R4：97.8%）	
「子どもは学校へ行くのを楽しみ」81.5%（R5：83.1% R4：85.8%）	
・《教員評価》	
「生徒や保護者の願いにこたえている」91.4%（R5：74.3% R4：80.0%）	
【学習指導について】	
○全体的に上昇がみられた。授業やものづくりに対する新しい取り組みが成果を上げている一方、教員の「習熟度別授業をさらにおこなうべき」の回答が91.4%あり、到達度の低い生徒に対する学習指導が課題である。	
・《生徒評価》	
「普通科目の授業はわかりやすい」88.8%（R5：85.0% R4：81.6%）	
「専門科目の授業(座学)はわかりやすい」81.4%（R5：79.8% R4：82.2%）	
「実験・実習などの授業はよく学習できている」92.7%（R5：92.4% R4：91.2%）	
・《保護者評価》	
「子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている」72.8%（R5：66.3% R4：73.1%）	
・《教員評価》	
「到達度の低い生徒に対する学習指導を全校的課題として取り組んでいる」60.0%（R5：60.0% R4：67.5%）	
「学習意欲の高い生徒に対する学習指導を個に応じた視点で工夫している」88.5%（R5：60.0% R4：62.5%）	
「本校の工業教育は現状のままでよい」65.8%（R5：42.9% R4：50.0%）	
【生徒指導等について】	
○生徒の評価は上昇しており、保護者の評価は昨年より下がっているが高い評価で推移している。教員の評価は上昇しており、丁寧な指導を心掛けていることがわかる。引き続き、多様な生徒に対する生徒指導・支援の在り方について考える必要がある。	
・《生徒評価》	
「いじめについて真剣に対応してくれる」87.7%（R5：87.7% R4：84.2%）	
「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」90.1%（R5：85.2% R4：83.1%）	
「先生の指導は納得できる」79.6%（R5：71.8% R4：65.6%）	
・《保護者評価》	
「いじめや差別を許さず厳しく対応している」85.8%（R5：93.8% R4：95.5%）	
「学校の生徒指導の方針に納得できる」81.5%（R5：86.3% R4：88.1%）	
「生命を大切にす心や社会のルールを守る態度を育てようとしている」90.2%（R5：93.1% R4：96.3%）	
・《教員評価》	
「いじめ(疑いを含む)に対して対応することができている」77.1%（R5：77.1% R4：60.0%）	
「生徒の問題行動が起きたとき、教員が対応できる体制が整っている」77.1%（R5：51.4% R4：57.5%）	
「生徒指導等において、家庭との密接な連携ができている」81.4%（R5：68.6% R4：80.0%）	
「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導が行われている」88.6%（R5：60.0% R4：60.0%）	
【進路指導について】	
○キャリア教育の推進により、「将来の進路や生き方について考える機会がある」の項目が上昇。教員評価からも生徒の進路を考えた指導がなされていることがわかる。	
・《生徒評価》	
「進路のことを考えてこの学校に入学」79.8%（R5：78.8% R4：80.5%）	
「卒業後、進学したい学校やつきたい職業がある」67.9%（R5：66.1% R4：67.6%）	
「この学校には、将来の進路や生き方について考える機会がある」92.8%（R5：89.3% R4：84.2%）	
「進路希望に応じた授業が選択できる」91.5%（R5：93.8% R4：86.6%）	
・《保護者評価》	
「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」88.1%（R5：90.0% R4：93.3%）	
・《教員評価》	
「生徒一人ひとりが興味・関心・適正に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」85.7%（R5：74.3% R4：93.3%）	
【考察と分析・方針】	
評価が伸びている項目（昨年比）	
「この学校に入ってよかったと思う」+9.4%	
「学校生活について先生の指導は納得できる」+7.8%	
「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談できる先生がいる」+6.0%	
「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」+4.9%	
要望・課題等	
【生徒】	
「もっと“ものづくり”（作品製作の実習等）をしたい」81.7%（R5：83.5%）	
「卒業後、進学したい学校や就きたい職業がある」67.9%（R5：66.1%）	
「資格・検定の取得に向けて努力している」67.0%（R5：66.9%）	
「家庭でも自分で学習している」38.7%（R5：40.9%）	
覧表	
・令和6年度「地域産業連携重点型工科高校」としての取組み（佐野工科地域コンソーシアム）	
●令和6年度学校経営計画の方針に対する質問（生徒数が激減、過渡期ともいわれる高校教育で、ICT機器の活用や定期考査を廃止するなど他校との違いをアピールする取組みが頼もしい）	
○生成AIの活用はたいへん魅力的で、企業より学校のほうが先端を走っているように思う。	
○中学校では生成AIの悪用に関する懸念事項があつてなかなか進まない。授業として具体的な活用方法を教えてほしい。	
【Ans】例えば、グループワークの中で一定意見が出た後、ファシリテーターとしてAIを使い、意見の要約100文字にまとめるなどが可能。電気系ではプログラミングで誤った言語入力箇所を教員の代わりに修正することや生徒自身で問題解決にAIの力を借りることもできる。	
○生成AIを使った製品づくりとしての例はあるか。	
【Ans】産業創造系では画像生成AIの作品をバーチャル空間に展示することを行っている。2Dアニメーションや3Dモデリングなども可能である。	
○AI導入に関して有料版と無料版があるが、明らかに有料版のほうが優れている。学校ではどうか。	
【Ans】現在は、学校の回線では使えないものがある。一部の生成AIはSNSで使える。	
●各分掌や各科系の方針に対する質問	
○電気系や機械系は資格取得がアピールされているが、産業創造系では資格取得への取組みがあるのか。	
【Ans】色彩検定やQC（品質管理）検定などを実施している。系全体で資格を取らせるような取組みをしていないが、生徒の希望に合わせて個別に対応しており、電気工事士の資格を取る生徒もいる。産業創造系ではデザイン・機械・電気・情報など各方面専門の教員がいるので、多岐にわたる就職選択にも対応できるようになっている。	
○昨年度10月25,26日の商工まつりイベント参加に対するお礼と今年度実施に向けての依頼。	
○企業での取組として生成AIであいさつデータを作らせたり、税理士の人手不足を補うようにAIを活用したりしている。使われる人材は不要になっていくかもしれないが、ぜひともAIを使いこなせるような人材を育てていただきたい。	
○学習支援クラウドサービスについて詳しく教えてほしい。	
【Ans】一人当たり年間¥6,000程度でコンテンツ講座数が多く、一般常識的な基礎学習（中学）再確認もできる。本校では朝のSHR学習などで使用している。学年によって使い方の差があるが、毎日続けることで向上が期待できる。結果の検証把握が必要だが、就職SPIに対応する狙いがある。	
●教科書選定に対する質問は特になし。	
●まとめ	
○令和6年度学校経営計画、教科書選定に関する資料について承認された。	
○資格をしっかりとれるように、また生成AIの活用も進めていただきたい。	
●地域連携重点型工科高校としての取組みの説明（実績と今後の予定）	
PRとしての学校説明会、外部開催以外でも随時本校への学校見学の受け入れを行っている。	
第2回 令和6年11月28日（木）15:30～16:45	
・令和6年度学校経営計画及び学校評価（進捗状況）	
・令和6年度 各分掌・系よりの目標設定（進捗状況）	
・地域連携等一覧表（コンソーシアム）	
●校則の見直しについて	
・頭髮の部分「高校生らしい」という文言について検討	
○いろんな思いが込められているなら削除しなくてもいいのではないか。	
○その文言がなければ困るというような判断なら残すほうがいいが、そうでなければかわないのではないか。	
【Ans】あいまいな表現の例として「高校生らしい」という文言が入っていたため、削除変更をかける必要が生じた。わかりやすい表現を検討する。	
●事象の報告について	
今年の芸能祭の前日に準備していた音響装置が荒らされていた。一部破損あり、再調整のため、1時間半遅れで開始し、一部の演目が中止になった。生徒の目撃情報により発覚。	
○とても驚いている。次年度へ向けての対策が必要。	
【Ans】教育庁に相談し、現在調査中。	
●令和6年度「学校経営計画及び学校評価」の進捗、次年度の方針に対する質問	
○次年度は定期考査を全廃し、チャレンジ週間の時期をまとめてチャレンジ月間にする企画について、面白い取組みである。	
【Ans】9月末まで非常に暑く、エアコンがない教場の安全性も考慮に入れた。	
○原付免許を就職までにとることを推奨する件について、府教委はOKなのか。	
【Ans】免許取得について、問題はなく、校則で禁止している学校は削除するよう	

府立佐野工科高等学校

【保護者】 評価が高い項目 「佐野工科には、他の学校にない特色がある」97.8%（R5：98.7%） 「子どもを佐野工科に行かせてよかったと思う」96.8%（R5：94.3%） 「子どもとの意思疎通はよくできている」91.4%（R5：91.8%） 「学校は子どもに生命を大切に作る心や社会ルールを守る態度を育てようとしている」90.2%（R5：93.1%） 課題 「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている」72.8%（R5：66.2%） 「子どもは、家庭でよく勉強している」33.7%（R5：40.0%） 【教員】 課題 「到達度の低い生徒に対する学習指導を全校的課題として取り組んでいる」60.0%（R5：71.4%） 「学習意欲の高い生徒に対する学習指導を個に応じた視点で工夫している」60.0%（R5：60.0%） 「生徒の問題行動が起きたとき、組織的に対応できる体制が整っている」60.0%（R5：51.4%） 「人権教育の課題や指導方法について教員が取り組んでいる」62.8%（R5：48.5%） 〈分析〉 これまでの取り組みが評価され、総じて生徒、保護者の評価は高い状況にある。気になる項目を取り出して分析を行った。 今後の方向性について R6で力を入れた2項目 ① 個々の生徒の状況に応じた指導・支援（不登校対応等） ② 体験的な学習と職場・工場見学の機会の増加 一層充実を図る項目 ・ものづくりの機会の増加 ・実験・実習の一層の充実 ・家庭学習の推進 ・オンライン学習ツールの活用 ・生活指導から生徒支援体制へ ・教育相談の充実（多様化する問題行動への対応） ・家庭での対話の促進（資格取得や職場見学等、対話が生まれる内容を増加）		に指示がされた。原付免許が必要な電動自転車が無免許運転する事案が散見され、免許取得により交通法規を知ること、抑止できると考える。自転車の交通安全講習の中でも免許を持つことの意味も併せて伝えていく。 ○親としては囲いのない乗り物には乗らせない方針がある。 【Ans】免許を持つと事故につながるのではないかという懸念はあるが、資格の一つと考えてもらいたい。無免許運転の場合、最低2年間運転免許が取得できない。就職の際に困らないように備えたい。 ○原付免許を取らせる方向で乗るのを禁止しないというのは3ない運動をしないことになる。珍しく、通常にはない見直しであると思う。 【Ans】モペット自転車や電動キックボードなどを無免許で乗らせないという認識に改めていかないといけない。時代に合った合理的な判断で統一性のある指導を行いたい。 ○一人ひとりの教育の推進で生徒の満足度が目標値より下回るのはなぜか。 【Ans】年によってブレがあり、分析要因が見当たらない。発達特性に関しては進路指導部の取組みでサポートされている。 ○もともとの目標値が高いというのもあると思う。 ○PTAのSNSアカウントはうまくいっているか。 【Ans】PTA役員のみ個別には対応できている。全体にはメールを使用し、SNS発信のプランはない。 登録が必要になるため、アプリを取っていない人もいるため、全員には難しい。 ○町内会の防災に関して地域住民の避難所となっているが、被災居住区の受け入れ範囲は決まっているのか。 【Ans】泉佐野市が計画しているので周知されているものと認識している。 ●まとめ ○AI関係は先進的、そのまま続けていただく。 ○校紀が荒れだすと戻すのが大変なので、生徒の様子は気をつけてみていただきたい。 ○チャレンジ月間が成功するように頑張してほしい。 第3回 令和7年2月12日（水）15:30～17:00 ・令和6年度「学校経営計画及び学校評価」の報告 ・令和7年度「学校経営計画及び学校評価」の説明 ・令和6年度 各分掌・各科系の報告 ・令和6年度 佐野工科地域コンソーシアムの報告 ●中学校から高等学校への支援が必要な生徒の情報共有をしたい。把握する時間もほしいので期間確保のために入試を前倒ししてほしいところ。 【Ans】泉佐野市の生指研にて中学校側から佐野工科高校ではいろいろなサポートがあるということが評判になっている。自宅でもできる学習支援クラウドサービスの活用などを通して学ぶことができ、登校復帰する生徒もいる。相談室の活用などサポート体制の用意がある。 ●中学校と高等学校との連携があったほうが、高等学校入学してからの不登校未然防止ができるのか。また、高校生活支援カードの情報は記入されているのか。書かないのか書けないのか定かではないが、他校では白紙のものもあると聞いている。記入があったほうが、配慮してもらえるのか。 【Ans】中学校との情報連携は重要である。高校生活新カードについて本校では、わりと記入もされているほうだ。学校と保護者の情報共有のツールとして重要視しており、継続で支援や配慮が必要な生徒には支援カード記入の大切さを中学校で指導してほしい。 ●自己診断結果から生徒の満足度が上がっていることが見受けられる。しかし、一方で懲戒件数が上がっているのはどのような事象が起こっているのか。 【Ans】生起する中身については、喫煙、單車通学のほかに人間関係のトラブルがある。粘り強い対応と指導が今後も必要である。 ●出前授業は中学校が対象であると思っていたが、小学校でも行われていることが分かった。小学生に対してはどのようなことを行っているのか。 【Ans】ものづくりの楽しさを実感してもらうようなテーマで行っている。 ○資格取得の向上が見られてよいと思う。 ○ものづくりの関して持ち帰れる成果物が増えた。先生の熱意が感じられる。	
--	--	---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1 社会的自立を見据えた基本的生活習慣と規範意識の醸成による自己実現	(1) キャリア教育の観点から基本的生活習慣、社会性、規範意識をはぐくむことにより自己実現を図る。	1)・日常的に遅刻、頭髮、服装等についての指導を行う。定期的に全校的な指導を実施し、自己実現のための規範意識の向上を図る。 ・懇談週間では、学年が主体となって家庭と生徒情報を密に交換し、課題の早期発見に努める。	1)・生徒指導納得度 70%以上 ・懲戒件数 30 件以下 [27 件] ・生徒 (社会のルールや命の大切さを学ぶ) 80%以上 [85.2%] ・保護者 (連絡・意思疎通) 80%以上 [83.8%]	1) ・懲戒件数 31 件 (△) ・生徒社会やルール 90.1% (◎) ・保護者 (連絡・意思疎通) 84.3% (◎)
	(2) 新たな教育手法 (PBL 等) を探求し、スマート専門高校として習得した最先端技術・技能を基礎とした創造力を育成する。	2)・各種コンテスト、大会に積極的に参加し成果を上げる。また、資格取得によりチャレンジ精神と自尊心を育成する	2)・コンテスト応募、近畿大会・全国大会での入賞 [ロボット相撲他] ・資格取得数 600 以上 [312]	2)・近畿大会・全国大会入賞 (◎) ・資格取得数 787 (◎)
	(3) 正しい勤労観・職業観を育成するために、「キャリア教育」「職業教育」の充実を図り、社会の変化に主体的に対応できる力を育成する。	3)・企業見学など、仕事に触れる機会を多く設定し、正しい勤労観・職業観の育成を図る。 ・進路講話や職業に関する探究活動を推奨し、主体的にキャリアの育成に取り組む態度を育成する。	3)・応募前職場見学、大学、企業等見学への参加者延べ 450 名以上[150 名] ・就職一次合格率 85%以上 [91.7%]	3)・応募前職場見学参加者 575 名 (◎) ・就職一次合格率 87.5% (◎)
2 確かな学力の定着と学びの深化	(1) 教員の授業力を向上し、主体的・対話的な深い学びの実現に向けて授業改善を行い、指導と評価の一体化の観点から学習指導の見直しを行う。	1)・少人数展開をしている教科は習熟度別にするなど、各教科で授業改善を行う。 ・オンライン教材等を活用し、社会人として必要な基礎的知識の定着を図る。 ・各教科において「わかる」授業を実施する。 ・定期考査を活用した評価は段階的に削減する。	1)・授業理解度 75%以上 [普通科 85.0%] [専門(座学) 79.8%] [実験・実習 92.4%] ・授業アンケートスコア 3.19 以上 [7 月 3.33]・[12 月 3.32]	1)・授業理解度 [普通科] 88.8% (◎) [専門(座学)]81.4% (◎) [実験実習] 92.7% (◎) ・授業アンケートスコア (◎) [7 月 3.30][12 月 3.26]
	(2) ICT (1 人 1 台端末等) を活用した先進的な授業を実践する。	2)・ICT 機器の活用し、授業の改善を図る。 ・生成 AI や仮想空間、最先端技術を活用した教育実践を行う。	2)・授業での ICT の活用 100%を維持[100%]	2)授業等での ICT の活用 100% (◎)
3 生徒一人ひとりを大切にした教育の推進	(1) 個々の生徒の状況に応じたきめ細やかな支援と配慮を行い、いじめの防止、対人関係の課題解決を図り、安全で安心できる学びの場を提供する。	1)・「いじめは絶対に許さない」の信念のもと、厳しさの中にも、カウンセリングマインドを持って生徒指導を行う。 ・学習支援や相談機能を充実させ、中途退学者の防止を図る。 ・支援や配慮を必要とするすべての生徒に「個別の教育支援計画」・「個別の指導計画」を作成し、一人ひとりの個性に応じた支援と適切な評価を行う。 ・不登校生徒等の社会性に不安がある生徒の野外活動を実施する。	1)・退学率 1.5%未満 [2.2%] ・いじめ重大事象 0 件 ・生徒入学満足度 75%以上 [76.8%] ・生徒登校満足度 73%以上 [77.6%] ・いじめ対応満足度 80%以上 [87.7%] ・生徒指導納得度 65%以上 [71.8%] ・生徒相談満足度 60%以上 [72.2%] ・保護者入学満足度 95%以上 [94.4%] ・保護者登校満足度 75%以上 [83.1%]	1)・退学率 0.8% (◎) ・いじめ重大事象 0 件 (○) ・生徒入学満足度 86.6% (◎) ・生徒登校満足度 81.1% (◎) ・いじめ対応満足度 87.7% (◎) ・生徒指導納得度 79.6% (◎) ・生徒相談満足度 78.2% (◎) ・保護者入学満足度 96.8% (◎) ・保護者登校満足度 84.2% (◎)
	(2) チャレンジ週間の取組の充実を図り、生徒の挑戦心と自尊感情を育成する。	2)・年 2 回のチャレンジ週間に生徒の体験的な取組みを行う	2) 生徒登校満足度 75%以上 [77.6%]	2)・生徒登校満足度 81.1% (◎)
	(3) ICT 化推進により業務や会議の効率化を行い、生徒とかかわる時間を増やす。	3)・校内の ICT 環境を整備し、情報共有の効率化を図り、教員の事務負担を軽減する。 ・会議のオンライン化を推進し、教職員の負担を軽減し、働き方改革を行う。	3)・職員会議実施時間 1 時間以内 80%以上 [90.0%]	3)・職員会議時間 1 時間以内 95% (◎)

府立佐野工科高等学校

4 地域と連携した開かれた学校づくり	(1) 学校説明会等の広報活動により、学校の魅力の発信を効果的に実施する。 (2) 「地域産業連携重点型」工科高校として、地域企業や、行政組織等と連携してイベントに積極的に参加をする。活動を通して、生徒のものづくり技術やコミュニケーション能力の向上を図る。	1) ・中学生及び保護者のニーズに沿った「オープンスクール」等を年1回以上実施する。 ・Web等の発信を150回以上とし、令和8年度には、200回以上とする。 2) ・地域企業、事業所等と連携し、ものづくりにおける技術力の向上を図る。 ・行政や民間団体等と連携し、様々なイベントに参加して、ものづくりへの関心を高め、生徒の発信力を高める。 ・地域と連携し、ボランティア活動等を行う。	1) ・オープンスクール等参加者200名以上 [385名] ・Web等の発信150回以上を維持 [300回] 2) ・企業等連携15社以上 [20社] ・地域連携活動取組み件数3件以上 [5件]	1) ・オープンスクール参加者212名、その他説明会開催6回 (○) ・Web等の更新300回 (◎) 2) ・企業等連携20社 (○) ・奉仕的活動12件 (◎)
-----------------------	--	--	---	--